

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071400240		
法人名	医療法人 恵友会		
事業所名(ユニット名)	グループホーム ガーデンライフ		
所在地	和歌山県海南市船尾265-8		
自己評価作成日	平成22年12月24日	評価結果市町村受理日	平成23年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokohyo-wakayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3071400240&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2
訪問調査日	平成23年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療法人であり病院や老人保健施設が併設されており、24時間医療との連携体制が確保されています。ボランティアさんの協力で地域の公民館主催の文化祭に毎年入居者様の作品を出展させて頂いたり、また地域の学生の体験学習を受け入れたりと地域との交流も継続できています。屋上には菜園もあり、新鮮で無農薬の野菜の料理が食卓に並ぶ事もあります。独自に掲げている理念のように、個々の入居者様がそれぞれの生活スタイルでのんびりと過ごされています。家族様と一緒にのお花見や所内での食事会、遠足やカラオケ等々、年間を通して行事やレクリエーションも楽しみの一つです。市や同業者の方とも協力し、地域の認知症理解の啓発にも努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同一法人の病院が隣接しており、医療との連帯体制が確立されていることが強味であり、職員は安心して介護にあたる事ができる。立地の制約はあるが、屋上の菜園は野菜の供給の他、利用者と家族との憩いの場としての役割も果たしている。日々のケアの実践から得た気付きを職員自らが吟味しながら事業所全体の共有へと高め、理念の実現に向けて一丸となって取り組んでいる。また認知症ケアには地域ぐるみの取り組みが不可欠であるとの認識を全ての職員が共有しており、行政等との密な連帯のもと、事業所の重要な活動の一つとして、地域の認知症理解の啓発プログラムに積極的に参加している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「真心とやさしさ 誠意を持ってお年寄りに接する事で地域福祉に貢献します」という理念と独自の「のんびり ゆっくり ○(まあく)行こう」と新たな理念を作り上げ、お年寄りが住み慣れた地域で穏やかな日々を送って頂ける支援に努めている。	事業所としての理念に加え、日々のケアの実践を通して作り上げた独自の理念を共有している。管理者と職員は、両輪とも言えるその理念が示す原点に常に立ち返りながら利用者の支援に日々努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の婦人会の方やボランティアさんの協力を得ている。また、地域の公民館主催の文化祭にも毎年のように作品を出展させて頂いている。地域の中学生の体験学習も受け入れている。	地域の婦人会によるお茶会やボランティアによる押し花講習・ガーデニングが月1~2回行われている。また、年数回の中学生の訪問を受けての談話が主の体験学習もなされている。公民館主催の文化祭に、利用者の作品の出展も毎年行っており、地域との交流を重視している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市の高齢介護課、地域の同業者と共に認知症サポーター養成講座等を開催し地域における、認知症理解の啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回開催しており、家族・地域の方の代表、市の職員等にも参加して頂き、利用者様の現状や行事また、事故や苦情、評価への取り組み状況を報告し意見や提案を頂いている。	家族・地域代表・行政職員等の参加を得て2ヶ月に1回の運営推進会議が確実に開催されている。利用者の現状やサービスの実際、事業所の評価への取り組み状況等についての報告や話し合いから得られた意見を更なるサービス向上に反映させるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	権利擁護を利用している利用者様も居り、社会福祉協議会とは連絡を取り合っている。また、高齢介護課とは事業所の実情を相談する他、共に地域への認知症理解の啓発を行っている。	市の担当課には事業所の実情の報告や相談をすると共に、協力して地域の認知症理解の啓発プログラムを推進している。また社会福祉協議会とは日常生活自立支援事業の利用において密に連絡をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正面玄関が一階にあり、職員が目が行き届かない為、安全対策や感染防止対策を目的に家族様の理解を得て終日施錠している。他は行動を抑制する等の拘束は一切行っていない。	建物の構造上ホームは2階であるが正面玄関は1階となっている。事故等の経緯から正面玄関のみ施錠している。全ての職員は施錠が身体拘束該当行為である事は正しく理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様に対しての言葉遣いも含め、利用者様の人権を侵害するようなケアは行っていない。また、常に職員間でも注意し合える雰囲気である。自宅に帰られた時には、家族様の精神的負担に考慮しての助言をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前入居されていた利用者様が成年後見制度を利用されていた事もあり、現在権利擁護を利用されている方も居られ理解、活用できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭と文書による説明・確認を行い、納得して頂いたところでサインをお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口・担当者を設けていると共に普段の家族様来所時や家族会等でも意見、要望を出して頂ける雰囲気作りを心掛けている。出して頂いた意見、要望は真摯に受け止めケアの質の向上に繋げている。	月1回は必ず支払いのため家族が来所しており、その際に意見や要望を聞き取っている。また、年1回の家族会もその機会となっている。出された意見・要望で即応できるものは直ちに、即応が難しいものについては会議等で具体的方策を話し合い、実現に向けて取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回原則、職員全員参加による、ミーティングを行っている他、朝夕の申し送り時にも情報の伝達や意見交換を行いケアに繋げている。	日々のケア実践を通しての職員各自の気付きや朝夕の申し送り時に気付いた提案等は月1回のミーティングで図られ、ケアの充実に繋げている。月1回のミーティングには休みの職員も出席する事により全員参加の原則が保持されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本年度より、法人全体として、経営コンサルティング会社と契約、職場環境も含め改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	役職者を主に法人内での研修を定期的に行い実施していくと共に、全職員対象に内外の研修へも参加する機会が確保されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議やキャラバンメイトの啓発活動にも参加し、同業者との交流を図っている。地域密着型サービスケアネット和歌山の会員にもなっており、地域を超えての交流もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅やその方が受けているサービス事業所に足を運び、本人様と直接話し、その会話の中から「思い」を探ると共に、顔を覚えて頂くようにしている。入居初期には特に関わりを密にして、その方の安心の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様にも入居前に事業所の見学を兼ねた面接を行い、不安や要望を聞くようにしている。入居後も利用者様の状態や暮らしぶりを報告し、支援の方向性を共に探っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望時は在宅介護が限界をになっている事が多く「その時必要としている」のは家族様の負担軽減である事が多い。本人様や家族様との会話や状態の中から思いを探り、提示している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	半数以上の方は介護が主になってきているが、家事や所内外でのレクリエーションを職員と一緒に楽しんでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	最低月1回は来所して頂ける機会を設けている。必要に応じ適宜に報告や相談を行っている。行事の時には家族様の参加もお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の馴染みの場所を散歩したり、離れた地域の利用者様に対しては遠足を馴染みの場所に行ったりしている。家族様の協力で馴染みの関係の継続している方も居られる。	馴染みの場所が近い利用者については職員が同伴して出掛け、遠い場所については家族に協力を依頼して実施し、馴染みの関係の継続支援に努めている。また定期ではないが数ヶ月に1回は法人のバスを利用して利用者全員を原則として出掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関わりを職員が邪魔しないように見守っている。トラブル発生時には職員が間に入るようにしている。しかし、本人様の意向で一人の時間を希望される時にはその意向を重視している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方の家族様に運営推進委員として協力を得ている。他の施設等に移られた方の様子を観に行ったり、家族様とも親しい関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向の表出困難な方も含め、日々の暮らしの中で利用者様一人ひとりの意思や生活ベースを重視するよう努めている。また、家族様や職員間での話し合いで検討・確認している。	ホームでの日々の暮らしの中で利用者一人ひとりの思いや希望の把握に各職員は努めている。困難な場合にも家族からの聞き取りや職員間での話し合いで検討を重ね、利用者一人ひとりの思いや希望に沿った生活の実現に向けて取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居事前に本人・家族様、ケアマネージャー等から情報を得るようにしている。把握しきれない生活歴等もあるが、本人様との関わりの中で知る事もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で体調の異変や有する力の変化を見抜き、その日その時々の状態を観ての支援に努めている。見抜く力は職員によって多少の差があるのも現状であるが、口頭や記録での情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様の日々の暮らしぶりや気づきをカンファレンスで話し合い、家族様には必要に応じ相談し、それに基づき計画を作成している。しかし、家族様に計画の内容を適切に説明できていないのも現状である。	利用者本人の思いや希望を踏まえ職員間で十分話し合いをすると共に主治医等関係者の意見を聞き現状に即した介護計画を作成しており、家族の意見の聞き取りは月1回の家族来所時が話し合いの機会となっているが、十分であるとは言えない。	家族の意向が十分に反映された介護計画を作成し、その内容を職員間で周知・共有する事が重要である。現状に即した介護計画を家族に説明し、精度の高いモニタリングを確保すると共に介護計画の見直しに活かす事を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様別に一日の暮らしぶり、体調、食事、排泄状態を記録し職員間での情報共有とすると共に、医師等への情報の提供手段にもしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様一人ひとりの体調・食事・外出・外泊・等々に於いても、その方のその時々状態、状況に応じ柔軟に対応している。また、病院、老健施設とも併設しており、連携体制が整っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の押し花インストラクターやお茶の先生方にボランティアに来て頂き作品作りをしたり、お茶を楽しんだりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療法人で、殆どの入居者様の主治医が併設している病院の医師である。24時間医療との連携が確保されていると共に週4日、訪問医の診療を受けている。希望時や必要に応じ家族様に付き添い受診をしてもらっている。	利用者のほぼ全員の主治医は併設の病院の医師であるため24時間の医療連携が実現している。また週4回はホームを訪問しての診療がなされている。家族の希望や医師の指示により他の病院の受診が必要な場合には家族の付き添いによる受診を依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設している病院や老健の看護師とも協力体制が築けており、相談や処置の依頼をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療との連携体制が確保できており、情報の交換・共有もスムーズにできる環境である事から、入院時や退院後の支援も安心して頂ける。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「看取りの指針」に基づき説明を行っている。重度化の段階に沿って家族様と話し合っている。重度化の状態により医師にも入ってもらっている。	入居時に説明を行い方針を確認しているが、重度化に伴う変更が考えられるため重度化の段階に沿って本人・家族及び主治医との話し合いを行い、方針の確認をしている。確認された方針を本人・家族・事業所・主治医等関係者が共有しチームで支援に取り組んでいる。前年度には2名の利用者の看取りを行った実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	過去の対応の反省点をふまえ、事業所独自でもさまざまな緊急時を想定し、年数回訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体としての防災訓練や研修に参加していると共に事業所独自の防火訓練も行った。地域の元消防団員の方にも協力依頼をしている。	法人全体として年2回防災訓練及び研修を実施すると共に事業所独自の防火・避難訓練も随時行っている。訓練時には地域の元消防団員の参加も得ている。建物には各室にスプリンクラーがあり、緊急通報装置が備えられている。なお建物の3階は地域の指定避難場所になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ゆっくりと分かりやすい親しみのある、その人一人ひとりに合わせた言葉かけをし、また他府県出身の方には、その地方の方言などを使う事もある。親しみやすさが利用者様の人格を侵害する言葉にならないように職員間で注意し合うようにしている。	言葉かけについては利用者の氏名によることを原則としているが、利用者の反応等から判断して画一化は避け柔軟に対応している。職歴や出身地を考慮しての言葉かけが人格の侵害とならないように、職員各自が自己点検を行うと共にミーティング等を通して注意し合うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めるのではなく、入居者様のペースで自己決定してもらうように支援している。表出困難な方には、その方の立場に立ち職員間で検討したり、家族さんと相談したりしながら決めさせて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事故や利用者様間のトラブルに気を配りながら、一人ひとりの生活ペースで一日を過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様自身で選んだ服が、季節に沿わない服装の時はさりげない助言をし一緒に選ぶようにしている。しかし着替えを強要しないようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	数名の入居者様だが、職員と共に食事の用意、盛り付けや食器洗いなど行っている。状態に合わせて本人様の嗜好を確認し、トロミを付けたり、細かく刻んだりして提供する事もある。	一部の利用者は包丁等を用いて直接調理に参加している。テーブル拭きや食器洗い等にも利用者の参加がある。直接の参加ができない利用者については味付けや盛り付けの評価をしてもらい楽しい食事の雰囲気づくりの役割を担ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表にて管理し、食事やおやつ以外にも水分補給を促している。また、食欲がない時や食べにくい時は他の物を提供し食べて頂けるように工夫に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る人には声掛けを行い、介助の必要な方には職員が朝、晩行っている。週2回、曜日を決め義歯を洗浄剤にて消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表にて個々の方の排泄パターンを把握したり、落ち着かなくなる等その方の行動でも把握し適宜にトイレ誘導を行っている。夜間のみオムツを使用しておられる方も日中はトイレ誘導を行っている。	数名の利用者については排泄の自立が実現している。他の利用者についてはトイレへの誘導を原則としている。夜間のみオムツを使用している利用者についてもポータブルトイレへの誘導を行い、トイレでの排泄、更には排泄の自立を目標としての支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い野菜を中心とした食事を提供すると共に野菜ジュースなども提供している。個々の排便状態を記録し、必要に応じ医師に相談し投薬でコントロールする事もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	過度の介助が必要な方は曜日や時間を決めて入浴して頂いている。軽度の見守りだけの方は夕食前後に入って頂いている。いずれも入浴する、しないは本人様の意向に沿って支援している。	見守りのみが必要な利用者内数名の利用者は毎日の入浴である。他の利用者については曜日・時間を決めて週2~3回の入浴実施である。拒否をする利用者には促しは繰り返さず、気分が変わるのを待ってタイミングを図り実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ある程度の起床・就寝時間の目安はあるが、寝たい時に寝て、起きたい時に起きて頂いている。日中でも本人様の意向で居室で休んで頂いたり、体調をみて職員が横になる事を勧めたりする事もある。就寝前に足浴で安眠を促す事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が管理しており、内容や副作用の説明書はすぐに確認できる場所に保管している。個々の利用者様の体調を医師に報告相談し、投薬をコントロールしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	認知症の進行に連れ難くなってきているが、職員がサポートしながら、得意な家事等に役割を持って頂いている。カラオケが好きだった方は近くのカラオケスタジオに行くのを楽しみにされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一部の方は家族様の協力で外出・外泊ができています。認知症の進行や運動機能の低下に伴い、一人ひとり毎日とは行かないが、近隣への買い物や散歩にお連れしている。外食、ドライブ、カラオケ等皆と一緒に出かけられる機会を多く作るよう努めている。	近所への買い物や散歩は職員同伴で出掛けている。普段は行けないような場所へは予め予定を組み不定期ではあるが出掛けており、その機会を増やす努力が実を結びつつある。外出・外泊の実施については、利用者の家族の協力が得られており実現している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	「お金を使う」という事より「所持」している事に満足しておられるようである。「紛失」を家族様に理解して頂いたうえで、本人様の納得する金額を所持してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様より、家族様やボランティアの方宛に暑中見舞いや年賀状を送っている。各居室に電話は設置しているが、自ら掛けられる方はいない。本人様希望時には事務所より掛けて頂くようにしている。その際は職員がダイヤルを回している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンによる光の調整、室温は夏は高め、冬は低めに設定し外気温との差に配慮している。また、居住スペースが二階である事で直接的な騒音は入って来ない。また、所内に季節の花を飾ったり入居者様の作った作品や写真を飾っている。	職員のコまやかな配慮により、共用の空間に、不快や混乱をまねくような刺激はない。ゆっくりとくつろげるように椅子やソファが配置されており、気の合った人同士の談笑がみられる。ロビーや玄関には季節の花や利用者の作品や写真が飾られ和やかな雰囲気が出されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やソファを多く配置し、一人ひとりが、好きな場所で休めるようになっている。また、気の合った人を手招きで呼び、隣同士に座り仲良く話してる場面も見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には自宅で使い慣れた家具類を依頼するが、家族様の都合で新品や事業所の物を使用する事が多い。配置やベッドの高さなどは本人様の状態で工夫している。室内の木目の暖かさは評判がよい。	入居の際の使い慣れたものの持ち込みを依頼するが、なかなか実現しない現状がある。入居後徐々に使い慣れてもらえるよう、利用者本人の思いや状態に合わせて配置等に工夫をしている。木目鮮やかな部屋には縫いぐるみ等が置かれ心地良さを演出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用スペース、個々の居室が同フロアにあり職員が目が行き届きやすい。、トイレも各居室の間に整備されている。廊下やトイレに手すりを設置している。各部屋には表札を付けている。トイレの場所等は張り紙で表示する工夫をしている。		